テーマ	誰一人取り残さない授業づくりのリアル ～体育・道徳でどう救う？～
発表者 **（所属）**	企　画　者　：石坂　晋之介（埼玉県上尾市立上平北小学校） 司　会　者　：山下　大晃（神奈川県湯河原町立吉原小学校） 話題提供者　：小口　佑介（埼玉県上尾市立上平小学校） 話題提供者　：箱﨑　由衣（東京学芸大学附属世田谷小学校） 指定討論者　：樋口　亜紀（三重県四日市市教育委員会）

【発表概要】

《企画趣旨》

体育と道徳は、学級づくりの“周辺”ではない。

これからの未来をつくる教科の１つだと信じている。

本シンポジウムでは、体育科・道徳科を起点として、**「誰一人取り残さない授業づくり」**をいかに実現するかについて、現場のリアルな授業実践を踏まえながら深く検討する。

「誰一人取り残さない授業づくり」を掲げることは、これまでの授業において誰かを取り残してきた可能性への痛みの自覚を伴う営みである。本シンポジウムでは、授業の**最前線に立つ教員の視点**から、この理念とどのように向き合い、日々の授業づくりへどのように具体化していくのかを議論する。

当日は、体育科・道徳科における具体的な授業実践を提示し、授業の展開そのものを**「包摂の体験場」**へと再設計する必要性について考察する。リアルな授業事例を手がかりに、包摂的な学びの場を構築するための視点や方法を参加者と共有し、理解を深めていく。

さらに、提示された授業実践を踏まえ、**学級経営の視点**から指定討論者より示唆を得ることで、体育科・道徳科の授業価値をより多面的に捉え直す機会とする。これにより、教科固有の学びと学級経営の連続性を見通しながら、「誰一人取り残さない授業づくり」の実現に向けた総合的な議論を展開する。

《話題提供者》　埼玉県上尾市立上平小学校　小口　佑介

体育科からは、これまで取り組んできた**「UD 体育 10 のしかけ」**の実践をあらためてふり返る。「UD 体育 10 のしかけ」は、約 8 年にわたる実践の蓄積をもとに書籍として発刊され、今年で丸 3 年を迎える。今一度その実践を検証することは、体育の授業がこれまで誰かを取り残してきた現実と向き合い、次

の改善へ踏み出すための重要な契機となる。

本話題提供では、しかけを活用した具体的な授業実践を提示し、その省察を行う。あわせて、体育科で培われた包摂の視点が、道徳科の授業づくりとどのように重なり得るのかを探り、教科を横断した包摂的な学びの可能性を検討する。

《話題提供者》　東京学芸大学附属世田谷小学校　　箱﨑由衣

道徳科は、子どもが道徳的価値について考えながら自らの価値観を育み、よりよく生きようとする道徳性を養う教科である。道徳的価値の理解にとどまらず、自分との関わりで考えたり、物事を多面的・多角的に捉えたりしながら、自己の生き方について考えを深めていくことが求められる。そのため、一人一人が道徳的な問題に関心をもち、**『考えてみたい』『友達の考えを聞いてみたい』**という思いをもちながら学びに参加し、他者との対話を通して考えを広げたり深めたりしながら、**自分自身を捉え直していく**ことのできる授業づくりに取り組んできた。

本提案では、「誰一人取り残されない授業」という視点から、道徳科において**「取り残されている」とはどのような状態なのか**を捉え直す。授業の中で生じるつまずきや、学びへの参加が難しくなる場面を整理し、一人一人が道徳科の学びに参加するために、どの場面でどのような手立てが必要となるのかを授業実践をもとに検討する。さらに、体育科の実践との共通点や相違点を捉えながら、**「一人一人の学びが成立する」とはどういうことか**を問い直し、誰一人取り残さない授業づくりと学級経営とのつながりについて考える。